９：副鼻腔気管支症候群患者のカプサイシン咳感受性に対する prostaglandin I2 誘導体経口投与の影響

〇石浦嘉久 1，藤村政樹 2，織部芳隆 2，明　茂治 2，阿保未来 1，中村裕行 1.
（市立富山市民呼吸器内科 1，金沢大学大学院呼吸器内科 2）

（背景）副鼻腔気管支症候群は後鼻漏と湿性咳嗽を主要症状とする慢性気道炎症性疾患である．われわれは本疾患の咳嗽の発生機序に種々の炎症性メディエーターが関与することを明らかにしたが，Prostaglandin I2 の咳感受性に対する作用は不明である．
（目的）本疾患患者のカプサイシン咳感受性に対する prostaglandin I2 投与の影響を検討する．
（対象と方法）安定期副鼻腔気管支症候群患者 15 名を対象とした．既報の方法によりカプサイシン咳閾値を測定した後に，prostaglandin I2 analogue である beraprost 120μg/日または対照薬を 2 週間 cross-over 法で投与した．
（結果）beraprost 投与により気管支喘息患者の呼吸機能は変化しなかったが，カプサイシン咳閾値は有意に低下した．
（考察）副鼻腔気管支症候群患者の気道において，prostaglandin I2 は咳受容体感受性を亢進させる方向に作用することが示唆された．